地域と歩む
福大

浜通りで養蜂実験を開始

環境放射能研究所

難波 謙二 所長

福島大学環境放射能研究所の難波謙二所長らの研究グループは4月14日、原発事故被災地でのセイヨウミツバチへの放射線影響を調べる目的の実験で、帰還困難区域など6地点に巣箱を置きました。相双地域支援サテライトは設置場所の選定などに協力しています。

フランスの放射線防護・原子力安全研究所および国立農学・食料・環境研究所との共同研究。実験ではそれぞれ放射線量の異なる大熊、双葉、浪江各町の帰還困難区域4地点と、南相馬市の2地点の野外にミツバチの巣箱を6個ずつ、2年間設置。ハチの個体が被ばく線量に応じた影響を受けるかどうか、また、どのような植物の開花期に蜂蜜中の放射性物質濃度が高くなるのかなどの調査を行います。

難波所長は「蜂蜜も豊かな自然の恵みです。養蜂家の方々の協力を得ながら、安全な蜂蜜の生産に貢献できる研究を行いたい」と話しています。

養蜂用のハチ防護服を着用して巣箱を設置した（浪江町井出地区）

ちいきのこどもたち

楢葉町「防災と伝承週間」福島大と連携し体験学習

楢葉町では3月11日を「ならは防災と伝承の日」、3月5日から3月11日を「ならは防災と伝承週間」と定めています。楢葉町地域学校協働センターは期間中、子どもたちの防災意識を高めるため、非常食作りや水のろ過実験などの体験活動を地域住民らと共に行い、延べ250人以上の子どもたちが参加しました。

特に福島大学災害ボランティアセンターとの協働活動では、大学生と共に防災リュック作りや防災グッズ作りを体験し、共に考え・学び合うことを通して、異年齢での学びの良さを実感できました。3月11日に開催された「3.11・つなぐ・未来」のイベントでは、子どもたちは大学生と共にその成果を堂々と発表し、町全体の防災意識も高まりました。

楢葉町地域学校協働センター長
猿渡 智衛

相双地域支援サテライトの活動

地域復興支援

インターンの方法考案 学生ら富岡でツアー

なりわい活性化の様々なアイデアが出たワークショップ

2月24日、大学生自らが富岡町でのインターンシッププログラムを考案するスタディツアー「富岡×仕事 魅力発掘1日インターン」を同町で行いました。

町が2023年度、若者の就業や移住を期待して初めて実施するインターンシップ事業に備えるもので、福島大、東北大、神戸大、早稲田大の学生ら15人が参加。富岡町観光協会、とみおかワインドメーヌ、宮田運輸の3事業者を招いて、町のなりわいを活性化しようと多彩なアイデアを出し合いました。

ツアーでは事業者の取り組みを聞いたり、ワイン用のブドウほ場など町内を見学したりした後、ワークショップを行って各事業所でのインターンのやり方を考えました。町は今回の成果を受け、学生らを中心にプログラム開発を本格化させる方針です。

相双の風 vol.34
2023年6月発行

発行／福島大学地域未来デザインセンター
相双地域支援サテライト
〒960-1296 福島市金谷川1

〔金谷川キャンパス〕TEL：024-504-2834
〔富岡サテライト〕TEL：0240-23-6675
〔浪江サテライト〕TEL：0240-23-5970
https://satellite.net.fukushima-u.ac.jp/

福島大学
地域未来
デザインセンター

相双地域支援
サテライト

相双の風

Vol. 34
2023年春号

「相双の風」は、被災地域の今と、福島大学地域未来デザインセンター相双地域支援サテライトの取り組みを紹介するニュースレターです。
相双地域支援サテライトは被災地と福島大学をつなぐ現地拠点として、被災地域復興に向けた支援活動を行っています。

避難指示解除の4月1日、夕暮れ時の桜並木。例年より1週間早く満開を迎え、多くの人でにぎわう

TOPICS ｜ トピックス

桜咲き誇り、避難指示解除
― 富岡町夜の森

富岡町の帰還困難区域のうち、桜の名所として知られる夜の森地区を含む特定復興再生拠点区域（復興拠点）で4月1日、避難指示が解除され、原発事故以来12年ぶりに居住が可能になりました。

全長2キロに及ぶ桜並木が咲き誇る中、格別な思いでこの日を迎えた人がいます。生まれ育った新夜ノ森地区で自宅を再建する大和田信成さん（66）。「今まで見た桜とは全然違う。本当にきれいだ」。着の身着のままで避難し、帰還のめどが立たないと知った時は「人生、終わったと思った」。それでも「古里への愛」は断ち難く、7年前に自宅を解体した後も必ず戻ると決めていたといいます。

大和田さんは今、再建予定地周辺の草取りに余念がありません。「安らぎを感じる。家族全員で住めるのは最高です」

▶自宅再建予定地の前に立つ大和田さん

「周りの家もみんななくなってしまって」と寂しげだが、「今後、移住者が増えてくれれば」と願う

相双地域支援サテライトとは？

サテライト長着任あいさつ

福島大学地域未来デザインセンター
復興創生担当
相双地域支援サテライト長
藤室 玲治（特任准教授）

この度、2023年4月より相双地域支援サテライト長に就任いたしました。

2022年4月に福島大学では、これまで福島の復興支援に力を注いできた「うつくしまふくしま 未来支援センター（FURE）」と、産官学連携などに貢献してきた「地域創造支援センター（CERA）」を統合する形で「地域未来デザインセンター（CFDC）」が発足しました。これまでFUREの下にあった相双地域支援サテライトもCFDCの下に移りました。

さて被災12市町村では、2022年から2023年にかけて、特定復興再生拠点の避難指示解除が進みましたが、4月1日に富岡町を訪問した岸田総理が述べたように、それはゴールではなくスタートです。コミュニティや生活の再生、教育や産業の再生など、被災地域にはいまだ多くの困難な課題があります。

相双地域支援サテライトでは、CFDCが重視する「市民中心主義」と「産官学民連携」により、それらの困難を克服しようとする地域の皆様と共に、支援活動を行ってまいります。

サテライト長を含め、総勢10人の小さなグループですが、「何ができるのか」を常に模索しながら、全力で取り組みたいと思っております。ぜひお声掛けいただき、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

相双地域支援サテライト
マスコット
そうそうくん

相双地域支援サテライト概要

震災から1年余り経過した2012年6月、川内村に被災地域支援の現地拠点として設置。その後、被災地域の避難指示が解除され住民の帰還が進む中で活動拠点を順次移転し、現在は福島大学のほか富岡町と浪江町にサテライトを設置し、被災12市町村を対象とした支援活動を行っています。サテライトのスタッフは福島県から任命された復興支援専門員で、地域復興支援、教育環境整備、企画・連携の3業務を分担して活動しています。

支援対象市町村

南相馬市・飯舘村・川俣町・葛尾村・田村市・浪江町・双葉町・川内村・大熊町・富岡町・楢葉町・広野町

沿革

2012年	6月	川内村に「いわき・双葉地域支援サテライト」開設
2015年	8月	同サテライトを楢葉町に移転
2016年	4月	「いわき・相双地域支援サテライト」を「相双地域支援サテライト」に改称
2017年	5月	南相馬市に「南相馬分室」開設
2020年	8月	楢葉町の同サテライトを富岡町に移転
2021年	4月	川内分室、南相馬分室を閉鎖し浪江町にサテライトを新設 「富岡サテライト」「浪江サテライト」と呼称

福島大学公式マスコット
キャラクター
めばえちゃん

所在地・担当者

金谷川キャンパス

〒960-1296
福島市金谷川1
福島大学地域未来デザインセンター
（学校臨床支援センター内）

サテライト長
藤室玲治

企画・連携担当
加藤まゆみ・清野哲也

富岡サテライト

〒979-1192
双葉郡富岡町大字本岡字王塚622-1
（富岡町役場内）

地域復興支援担当
佐藤孝雄・山田美香・加賀谷環

教育環境整備担当
坂地麻美子・櫻井聖子

浪江サテライト

〒979-1592
双葉郡浪江町大字幾世橋字六反田7番地2
（浪江町役場内）

※現在閉所中。7月再開

地域復興支援担当
髙野真幸・伊藤 航
※8月着任

相双地域支援サテライト 2023年度事業計画

福島大学地域未来デザインセンターが重視する「市民中心主義」と「産官学民連携」により、また福島大学の学知と、大学生の自発的な力、12市町村自治体・住民および避難先に定住された住民の皆さまとの広域連携により、相双地域支援サテライトの復興専門支援員は、以下の業務に取り組みます。

Ⅰ.地域復興支援担当の業務

❶ 被災市町村が抱える課題の把握と支援
12市町村自治体、団体・企業、住民へのヒアリングや各種会議参加を通じて、課題を把握し、把握した課題解決のための支援を行います。

❷ インターンシップ・プログラムの開発と実施
主に富岡町において、町内で活躍する企業・団体へのインターンシップ・プログラム開発を大学生自身が行い、実施することを支援します。

❸ 被災地スタディツアーなどの実施
福島県内外の大学生などを対象としたスタディツアーを実施し、12市町村の現状の発信と、交流人口拡大を目指します。

❹ 首都圏での展示会開催による被災地情報の発信
12市町村の帰還住民や移住者などを取り上げ、首都圏での展示会を開催し、「被災地」に関する情報発信を行います。

❺ 役場職員を対象とした研修・交流の機会の提供
12市町村の役場職員が復興施策について学びあえる、研修・交流の機会を提供します。

❻ 福島大学市民講座の開催
自治体や住民のニーズに応じた、福島大学教員などによる、市民講座を開催します。

❼ 災害の記憶や地域の歴史・伝統などの伝承支援
12市町村における、災害の記憶や、歴史・伝統などの伝承の支援を行います。

❽ 復興住宅などでの支援活動および「ふるさと」との交流支援
12市町村から遠隔地の復興住宅などに移った住民を支援し、従前居住地との交流を支援します。

❾ 福島大学、福島国際研究教育機構（F-REI）と連携した支援
福島大学地域未来デザインセンターと連携した産業支援、起業支援、また福島大学環境放射能研究所による調査研究活動への支援、福島国際研究教育機構（F-REI）と連携した地域支援を行います。

役場職員を対象とした研修・交流会

Ⅱ.教育環境整備担当の業務

❶ 教育現場が抱える課題の把握
12市町村の幼稚園・少中高校の教育現場が抱える課題を把握し、必要な支援を行います。

❷ 教育環境整備に向けたワークショップの開催
福島大学教員や大学生と連携し、12市町村の教育現場が抱える課題解決につながるワークショップや、地域との連携活動を行います。

音楽ワークショップ

❸ 保育職員などに対する指導支援
12市町村での保育職員などへの指導支援を、専門家の参加を得て行います。

❹ 福島大学生などによる部活指導
12市町村の中学校などで、福島大学生などが部活の指導を行います。

Ⅲ.企画・連携担当の業務

❶ 定期刊行物による情報発信（相双の風、ぐるぐるMAPなど）
季刊誌「相双の風」（年4回発行）や、12市町村の復興状況や、観光地、飲食店などをマップ化した「ぐるぐるMAP」などを発行し、被災地復興状況とサテライトの活動についての情報発信を行います。

❷ その他の被災地復興状況、相双地域支援サテライト活動内容の周知
WebサイトやSNSを活用し、また内閣府などが主催する「ぼうさいこくたい」や、その他の報告の機会への参加を通じて、被災地復興状況や相双地域支援サテライト活動内容の周知に努めます。

ぐるぐるMAP